

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 2年 3月 13日

事業所名 こども相談室てんとうむし大口南

		チェック項目	はい	いい え	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9		適切に対応しているが、運動等をグループ活動で取り組むには手狭なため、地区の学供を借りて行うようにしている。	今後も、公共施設を使いながら、子ども達の発達に必要な活動に取り組めるようにしていく。
	②	職員の配置数は適切である	9		適切に対応している。特に一日子どもを預かる一日療育では、きめ細やかな対応ができるよう、多めにスタッフ配置をするようにしている。	今後必要に応じて、きちっとした子どもの対応のできるスタッフ配置をしていく。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	1	階段が以前より急ではなくなったが、足を滑らせた方がいたので、もっと滑り止めがあると良い。 掲示場所をつくり、全体への連絡を可視化している。 階段や、元々の建物の構造上バリアフリー化は難しい。	昨年度、階段の傾斜を緩やかにし、まっすぐな階段に改修したが、滑るようなので、滑り止めについても、今後検討する。 バリアフリー化は難しいが、できるだけ安全に過ごせるよう、工夫していきたい。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、	7	2	清潔ではあるが、建物自体が古かったり、元々の作りから考えると、活動に合わせ	今後も、現状の環境の中で、できるだけ工夫して使っていきたい。

		子ども達の活動に合わせた空間となっている。			た空間とは言い難い。 マットを敷いたり、収納棚を作ったりして工夫している。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	9		週 1 回常勤ミーティング、月 1 回全体ミーティングを行い、必要に応じて、業務内容についての目標設定や改善点の話し合いをおこなっている。	今後も継続して行っていきたい。広く意見を出し合える環境も今後検討していきたい。
	⑥	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	9		事業所評価アンケートや、セミナーや行事後のアンケートを通じて、保護者の意見を聞き、必要に応じて改善するようにしている。	今後もより良い事業内容にしていけるよう、保護者の意見を参考にしながら、改善できることは改善していきたい。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公表している	9		評価結果表は事業所のホームページに公表している。	今後もホームページにて公表していく。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	4	行っていない。	
	⑨	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保している	8	1	職員の希望や、必要に応じた外部研修に参加している。事業所内でも、ケース検討や療育内容についての研修をおこなっている。	今後も、より良い療育をおこなっていく上で必要な研修に参加してもらい事業所内で共有したり、事業所内での研究研修を行っていきたい。 パート職員も多いため、新しい職員の体系的な研修システムを作っていく。

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、児童発達支援計画を作成している	9		子どもの生育歴や、現在の状況を把握したうえで、保護者のニーズや、子どもの発達状況に合わせた児童発達支援計画を作成している。	今後も適切に行っていききたい。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	1	対人関係・コミュニケーション・怒りのコントロール・手先の活動・粗大運動の項目でアセスメントをおこない、発達検査結果も踏まえながら作成している。	今後も適切に行っていききたい。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9		児童発達支援ガイドラインに基づき、子どもの年齢や発達状況、家庭環境などに応じて必要な項目を選択し、支援内容を決定している。	今後も適切に行っていききたい。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9		支援計画に沿った支援をおこなっている。	今後も適切に行っていききたい。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	9		スタッフ同士で相談、話し合いながら療育をおこなっているが、特に個別療育においては、それぞれの工夫が全スタッフで共有できるようにしたい。（○○の教材が良かった、こういうものを作ってみたなど。）	プログラム作成に、必ず全員が参加できていないため、いなかったスタッフとの情報共有方法について今後さらに検討していききたい。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9		細かく目標を立てて、1人1人に対して丁寧に療育している。	プログラム内容をさらに広げ、深めていけるよう、今後も努めていききたい。

	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成している	9		子どもの発達状況に合わせて、個々に必要な活動内容の支援計画を作成している。	今後も適切に行っていききたい。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9		朝礼の時間に情報共有をおこない、支援内容や、支援方法、役割分担について確認している。	今後も適切に行っていききたい。
	⑱	支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	1	終了後には、その日の内容について、スタッフ間で情報共有をし、次回の支援に向けての話し合いもおこなっている。	必ず全員参加ではできていないこともある。今後も適切に行っていききたい。
	⑲	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9		内容ごとに様子を記入し、次回の支援の検討に活かすようにしている。	記録をするうえで、それぞれの目標設定を適切におこない、適切な記録ができるようにしていききたい。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	9		定期的に、モニタリングを行いながら適切に支援し、変更が必要であれば、計画を見直している。	正確なモニタリングができるよう、今後も努めていききたい。
や保護者との連携 関係機関や保護者との連携関係機関	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9		子どもの状況を把握したスタッフが対応し、必要に応じて対応するスタッフ間で共有している。	今後も現状を維持していききたい。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	2	保護者を通じて質問に答えたり、園の先生の見学希望には答えている。	連携している部分がまだまだ少ないので、今後、さらに連携できるようにしていききたい。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)	7	1	医療的ケアが必要な子どもは現在通所していない。	

	地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	3	医療的ケアが必要な子どもは現在通所していない。	
②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	4	保育所や園でどのように過ごしているのか、親からではなく、先生から細かく聞けるとよいができていない。	相談支援事業所と連携を図りながら、直接話を聞ける機会を増やしていきたい。
②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	3	就学についての話し合いの中で、必要な児については、療育での様子や、発達状況の情報を伝えることはあるが、相互理解を図るまではいたっていない。	今後も、情報共有や相互理解をする機会があれば、していきたい。
②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3	保育所や幼稚園に通所している園児の利用がほとんどのため、行っていない。	今後、状況に応じて必要があれば検討していきたい。
②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	4	町の事業所連絡協議会や NPO 法人主催のフォーラムに参加している。	今後も機会があれば、参加していきたい。
②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	5	利用の度に、療育での様子や家庭での困り事などの話をし、現在の課題や今後の対応法や方針を共有するようにしてい	今後も共有できるよう、努めていく。

					る。	
	⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9		保護者セミナーを定期的に行っている。	今後も、保護者の意向を把握しながら、セミナーを行っていききたい。
	⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）の支援を行っている	9		契約時に説明し、閲覧用に配置してある。	利用者に閲覧出来ることをもっと周知できるようにしていきたい。
保護者への説明責任等	⑫	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9		保護者セミナーを定期的に行っている。	今後も、保護者の意向を把握しながら、セミナーを行っていききたい。
	⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9		決められたアセスメントに沿って、把握した児の状況を踏まえた、支援計画を作成し、保護者の同意を得ている。	今後も、保護者に理解してもらえりような支援計画の作成をしていきたい。
	⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9		園生活や、家庭生活で困りごとがあれば、すぐに話せる体制を取れており、適切に対応している。	今後も、適切に対応していきたい。
	⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	2	父母の会は作っていない。保護者セミナーの中で、グループワークを行うなど、保護者の交流できる時間は作っている。	今後も、保護者セミナーを通して交流できる機会を作っていきたい。

	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9		個別活動やグループ活動では療育に同伴してもらい、話を聞いているため、日々相談があり、迅速に対応している。	今後も、意識して、保護者の相談を受けよう努めていく。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		年2回通信を発行し、行事予定や、活動の様子等を発信している。行事の様子の写真や、作った作品などの掲示も積極的に行い、情報発信するようにしている。	今後も保護者に理解してもらうための情報発信を行っていききたい。
	③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	9		個人情報保護方針に沿って対応している。	今後も適切に対応していく。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	9		子どもの発達状況に合わせて、構造化や視覚でわかるような教示をするよう配慮している。現在、対象となる保護者はいない。	今後も、適切に対応していく。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	4	地区の学供を利用して活動することはあるが、地域住民を招待するような活動は行っていない。町内の地域活動支援センターとの交流会を年1回行い、歌などの発表をしている。	今後も出来る範囲で、地域に開かれた事業運営をできるように努めていききたい。
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	1	各種マニュアルを策定し、年1回見直しを行い、職員内で共有している。保護者へは、閲覧出来るようにしている。緊急時対応・防犯・感染症に関しては、訓練を実施していない。	今後、実施方法など検討していく。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行	9		避難訓練月間を年2回作り、訓練を行っている。	今後も適切に行っていく。

	っている				
④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	9		年1回フェイスシートを記入してもらい、把握に努めている。	今後も実施していく。
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	今のところ指示書の必要な子はいないが、保護者に話を聞いている。	アレルギーの対応をする際には、医師の指示書をもらうようにする。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	4	共有しているが、事例集作成はしていない。	事例集を作成していく。
④③	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1	虐待防止についてのアナウンスはされているが、定期的な研修などは行われていない。	研修機会を増やしていきたい。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	1	重要事項説明書で説明はしているが、支援計画には記載されていない。	身体拘束はおこなわないことにしているが、やむを得ない場合の要件や説明や記録が必要なことは共有している。現在、適正化のための指針を作成している。

* 未回答②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲の各1